

から やま じょう
唐 山 城

大野城市教育委員会

大野城市から宇美町に向かうとき、福岡平野の東に壁のように連なる山々（宝満山や四王寺山、月隈丘陵）が途切れる峠を通ります。南の山が乙金山、北の山が井野山（標高236m、大野城市側の呼称は唐山）です。戦国時代、この井野山の上に唐山城という城がありました。



唐山城が最初に史料に現れるのは1568（永禄11）年のことです（図2）。当時筑前（福岡県）は豊後（大分県）の戦国大名大友氏が治めていましたが、博多を狙う毛利氏が中国地方から侵入し、それに応じて大友氏の重臣や豪族が一斉に反旗をひるがえしました。

岩屋城（太宰府市）を預かっていた重臣・高橋鑑種^{あきたね}の寝返りによって、大友方の軍は太宰府・水城周辺の平地を通行できなくなりました。

図1

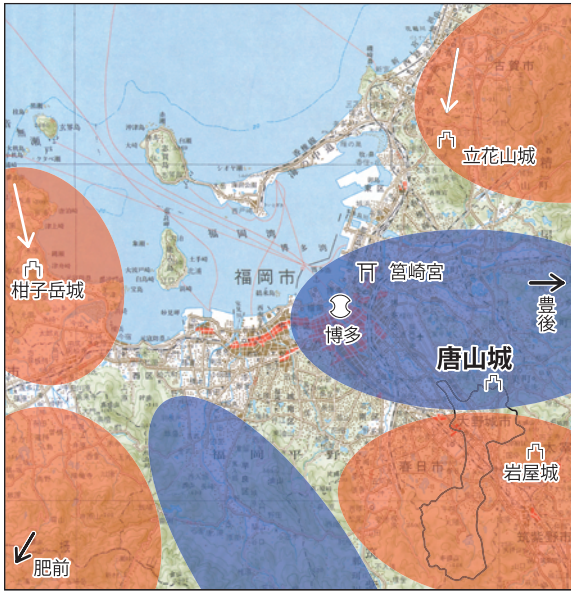


図2 1568年の状況
(青が大友氏、赤が敵対勢力)



図3 1578年以降の状況

北の毛利氏、南の高橋鑑種に対抗し、博多と大友氏の本拠豊後をつなぐルートを確認するため築かれたのが唐山城です。筒崎宮の座主が守将として配置され、1,500の兵が駐屯しました。

大友氏は毛利氏の撃退に成功しましたが、1578（天正6）年に薩摩（鹿児島県）の島津氏に大敗したことで、大友氏の領内は再び重臣や豪族の反乱にみまわれます（図3）。筑前では、立花山城の戸次道雪と岩屋城の高橋紹運が孤立する状況になりました。この時唐山城も、武士化していた宇美八幡宮の宮司の反乱の拠点となります。宇美八幡宮は唐山城の眼下にあるため、同じ八幡宮の筒崎宮座主に見下ろされるのが不快だったのかもしれませんが。しかし反乱は鎮圧され、再び筒崎宮座主（代替わりして道雪の子）や戸次家の家老が守将となりました。守将の身分の高さが、四面楚歌におちいった大友方の連携を確保するという、唐山城の重要性を物語っています。

唐山城が廃城となった時期ははっきりしませんが、1586（天正十四）年の島津氏による岩屋城陥落、翌年の豊臣秀吉による九州統一によって立花山城と岩屋城をつなぐ役割を失い、城としての役割を終えたのでしょう。

このように、史料にたびたび現れ、大友氏の苦境を支えた唐山城ですが、石垣や堀、土塁といった城らしい痕跡は確認できません。もともと重要さの割に大規模な工事がなされなかったようです。

しかし、現在展望台として整備された唐山城跡に立つと、西に福岡平野、南に水城、東に宇美平野、北に立花山、さらに北西には博多・志賀島・玄界灘を見渡すことのできる、非常に眺望に優れた地点であることがわかります。なにより、眼下に現代九州の大動脈とも言える九州自動車道を見下ろすことができ、重要な峠を見張る城であったことを実感できるでしょう。

唐山城跡へは、宇美町井野の八幡産宮から登ることができます。